

# 市民の手で市民憲章実践

推進大会  
開催



市民憲章の具現化による住みよき豊かな一関市の実現を目指して、関係団体などの連携と組織強化を図る一関市民憲章推進大会（一関市民憲章推進協議会主催、市共催）は2月16日、一関文化センターで約350人が参加し行われました。

大会では、参加者全員で市民憲章を高らかに唱和し、同協議会の日比野博輔会長が「市民憲章は制定後の実践運動が大切。皆さんの協力で楽しく活動してまいります」とあいさつしました。



客席へのインタビューも交え、軽妙な語り口で講演した西沢さん(右)

その後、市民憲章策定委員会委員長を務めた日比野会長、花木鳥選定委員会委員長の熊谷健さん、市民歌制定委員会委員長の大畑孝夫さんが、それぞれ制定経過と併せて紹介。市民歌は石井芳雄修紅短期大学名

をを務め、まちづくり講師として全国を訪れている西沢さんは、一関の印象や日本各地で見聞きした地域おこしの事例などを紹介。「自分たちが当たり前と思っていることの中に実はとても大切なものがあり、それを気付かせてくれるのが外から訪れる人交流を深めることで、自分のまちに誇りを持てるようになり、それが活性化につながる」と、客席へのインタビューも交えながら語りかけ、参加者の皆さんは熱心に聞き入っていました。

◎問い合わせ先  
本庁地域振興課振興係  
☎08673

市民憲章の普及啓発と推進に関する事業を行う組織として、10人の発起人により市内各種団体設立を呼びかけ、趣旨に賛同する128の団体・個人を会員として1月26日、設立されました。同日市役所本庁で行われた設立総会では、市民憲章の制定と今後の経過報告が行われた後、▽規約案▽理事、監事の選出▽一関市民憲章推進協議会設立大会を開催する18年度事業計画などが協議、決定されました。

理事には発起人を務めた10人が就任。会長には日比野博輔・一関市芸術文化協会会長が互選されました。役員については、下の表のとおりです(敬称略)。

また、市役所本庁および各支所地域振興課職員で組織する事務局が、市役所内に置かれています。

## 一関市民憲章推進協議会

市民の心よりどころである市民憲章の普及啓発と推進に関する事業を行う組織として、10人の発起人により市内各種団体設立を呼びかけ、趣旨に賛同する128の団体・個人を会員として1月26日、設立されました。同日市役所本庁で行われた設立総会では、市民憲章の制定と今後の経過報告が行われた後、▽規約案▽理事、監事の選出▽一関市民憲章推進協議会設立大会を開催する18年度事業計画などが協議、決定されました。

役職	氏名	団体
会長	日比野博輔	一関市芸術文化協会会長
	鈴木政喜	元一関市市民憲章策定委員会委員長
副会長	鈴木富子	花泉町教育振興運動推進協議会会長
	橋本真由美	東山国際交流協会会長
理事 (順不同)	小島慎悟	一関ボランティア団体連絡協議会会長
	小梨浩子	一関地域区長会連絡協議会会長
	懸田等	一関市健康づくり推進協議会会長
	菅原一郎	NPO法人一関文化会議所理事長
	千葉鐵男	いちのせきもち文化研究会会長
	葛西信一	元一関市市民憲章策定委員会副委員長
	菅原五三男	千厩町まちづくり団体連合会会長
監事 (順不同)	皆川保宏	室根町自治会連合会会長
		川崎町自治会連絡協議会会長

# 懸ける！ 駆ける！ 掛ける！



## 大東大原水かけ祭り

火防、厄よけ、大願成就の願いを懸け、通りを一気に駆け抜ける裸男。清めの水を容赦なく浴びせ掛ける浴道に待ち構えた人たち。他に例を見ない、これぞ「天下の奇祭」

「大東大原水かけ祭り」は2月11日、大東地域の商店街で行われました。火防・厄よけなどの願いを懸けて、北は北海道から南は遠く島根県まで、県内外から参加した276人の裸男が、「清め水」を全身に浴びながら通りを疾走。349年の歴史を誇る「天下の奇祭」は、3万3千人の人出でにぎわいました。

例年がない暖冬で、この日も青空が広がる穏やかな一日。とはいえ、時折通りを吹き抜ける風は、やはり冬の冷たさ。白綿の腹巻に鉢巻、わらじ履きの裸男たちは、ひしめき合い小刻みに体を動かして開始を待ちます。

午後3時、いよいよ水かけ。合図と共に、裸男が通りを勢よく駆け出すと、おけを手に持ち構えていた浴道の観衆から一斉に「清め水」が、裸男は冷たい水が容赦なく浴びせ掛けられる中、

「ウォーツ」という雄たけびを上げながら通りを一気に走り抜け、浴道からは「いぞ」「がんばれ」の声も盛んに掛けられました。裸男の後は、厄年の女性などの代役として走る、「加勢人」と呼ばれる子どもたちが、まんじゅうがさに鼻おしろい、独特の装束を身にまとって続きました。

5区間約500mを駆け抜け、ずぶぬれの裸男たちは、達成感でニッコリ。隣同士肩を組んで輪になり、「納め水」を浴びてさ

らにずぶぬれ。こうして、「天下の奇祭」は幕を閉じました。水かけに先立っては、祭りの起源である火防への願いを込めた、消防団による勇壮なまとい振りや、仮装手踊り、大東高校鹿踊部員15人による伝統の行山流鹿踊りなどが披露され、祭りを盛り上げました。また、通りにはさまざまなお店が立ち並び、歩行者天国を埋めた人たちは、真冬の「熱い祭り」の一日を満喫していました。



(上)通りいっばいにひしめき、駆け出しの合図を待つ裸男衆  
(下)あどけない、かわいらしい姿にも、大切な役目を担う「加勢人」  
(左)今年の夏、島根県で行われる全国大会への出場も決定した、大東高校の行山流鹿踊り

水かけの締め、輪になった男たちに浴びせられる「納め水」。冷たい体ごととんずぶぬれ